

神奈川異グ連の活動状況を伝える機関紙 <第113号>

かながわ異グ連ニュース

発行：神奈川県異業種グループ連絡会議（議長 金究武正）

発行責任者：専務理事(事務局長) 芝 忠 編集担当：宗和 正憲

〒231-0015 横浜市中区尾上町5-80 神奈川中小企業センタービル5F

TEL 045-633-5142 FAX 045-633-5194

<http://www.kanagawa-iguren.com>

2012年4月号

【 今月のコンテンツ 】

- 第2回 震災調査報告 芝 忠 …………… 1、2
- 企業経営者に話を聴く（第4回）
山勝電子工業株式会社 代表取締役社長 金究 武正 …………… 2
- ガリバーファンタジー活動、英語教科書に掲載 雑賀 政徳 …………… 3
- 【 就業規則の作成について 】連載 オフィス 架け橋 松田 健 …………… 4
- 新藤久美子氏の東日本大震災津波の画集を見て 杉本 明子 …………… 4
- 異グ連会員グループ・プロジェクト状況 …………… 5
- 産学官交流サロンコーナー …………… 6
- 事務局コーナー …………… 6

< 第2回 震災調査報告 >

芝 忠

4月3日から5日、岩手県釜石地域と宮城県仙台地域の震災調査及び関係機関訪問を行いました。同行者は異グ連スタッフの杉本会計担当理事と銀座の高度技術人材派遣会社ピーススタッフ社の山本社長、茅ヶ崎の大型電動機修理業・協立電機工業の有賀取締役の4人です。途中で岩手大学の清水先生が合流しました。爆弾低気圧が襲来したときで、途中で新幹線や在来線がストップしたため、レンタカーに乗り換えて釜石入りをするなど強風下、吹雪の中での行動でした。しかし無理して行った甲斐があって、どこでも歓迎され、沢山の人の出会いがあり、勉強になりました。

震災のガレキは大半が片づけられた一方、あったはずの住宅や市街地が一掃され、僅かに点々とする建物は、解体しようにも家族が不明で、同意が得られずそのまま残っているものや、避難場所となった小学校など、津波にやられて使用不可能のまま、震災の象徴のように見えます。普段は海が見えないところなのに、防風林の松がおろ抜かれて、リゾート観光地みたいに海の景色が眺望されます。仙台市若林区・名取市・多賀城市は高速道路を挟んで海岸寄りが壊滅、内陸部が一部の損壊と明暗を分けた。道路が防波堤の役割を果たした。数隻の漁船が係留されていましたが、岸壁には建物は全くなく、いわゆる漁業基地としての機能はゼロと見受けられました。ただ土台だけが延々とつながり、そこに住んでいた家族やにぎやかだった街の痕跡が残り、改めて命の大切さを感じました。

仙台臨港鉄道が復旧し、海岸寄りの大手企業が操業開始した様子が伺われます。仙台市では低地に再び住む心配はないといえます。しかし他府県からの人口流入が増えており、仕事を求めて東北第一の都市に集まっているのでしょうか。仙台では海岸よりだけでなく、内陸部の損害も大きいようです。青葉山公園内にある東北大学の建物が地震で壊れ、外見は何でもありませんが、3棟解体、建て直す予定とか。

釜石地域では、我々が物資を送った4社と今年の調査で訪問した1社にきました。「津波で一切切流され、廃業しようと思ったけど、みなさんからの支援を受けてもう一度頑張ろうという気になった」そうです。息子さんや娘さんなど後継者がおられるところは仕事の励みとなっています。取引先からの仕事の回復や、

船舶修理の仕事、新規の暖房器具など、明るい材料が多く、いち早く着手した強みとなっています。いずれも元の建屋は津波でやられましたが、修理したり、まるまる空いている建屋を借りたり、街中（だった）広場にバラック建ての小屋を作って営業していたり、終戦後の日本を思い出します。

工作機械類はいずれも海水と泥をかぶり動いていません。取り換える必要があります。

盆地である遠野市は以前から釜石地域と交流があり、今回の被災にあたって、相当な支援を行ったようです。隣接地域のつながりを利用して、後方支援基地としての役割を十分に果たしたようです。今回の震災は地域間連携の在り方についても課題を投げかけました。我々も日常的な隣接地域との何らかの連携が必要だと思いました。

案内や解説をしていただいた、宮城県庁・岩手県庁のほか
NPO未来環境福祉ネットワークの赤木さん、リバイブの高橋さん、
遠野市の菊池さん、岩手大学の清水先生など多数の人たちの助力を
得て回ってきました。改めてお礼申し上げます。



【 企業経営者に話を聴く 】

< 異グ連スタッフ勉強会 >

(第 4 回)

山勝電子工業株式会社

代表取締役社長

金究 武正

<http://www.yamakatsu.co.jp/>

編集部： 宗和 正憲

山勝電子工業（株）は1973年（昭和48年）に川崎の地に誕生し39年。応用電子機器の設計・製作・開発、産業用高密度プリント基板回路設計・製作などを行っています。近年は今まで培ってきた光工学など開発技術を駆使したランニングコスト抜群のLED照明が川崎市環境局地球環境推進室の対象製品技術と認定され、学校や銀行をはじめ様々な企業さんでも注目されています。こうして今では従業員95人を抱える企業へと成長してきました。

会社設立のきっかけを伺うと「物づくりにおける付加価値の素晴らしさ」が原点にあります。6年間のサラリーマン生活の後、3人の仲間と共に起業。当時掲げた大きな目標が2つありました。それは10年以内に自社社屋を建てる事。そして自動作画機（当時1台1億ほどしたらしい）プロッターを導入するという事でした。しかし、あまりに壮大な事でしたので周りからなかなか理解が得られず苦労もあったようです。

しかし、10年後には見事目標を達成！このプロッターの導入（業界初）に伴いその後、会社が大きく飛躍することになります。更にその10年後、業界5位以内に入るという目標も達成しました。

右肩上がりの経済状況の中、「このままではやがてだめになる」と感じ、その後回路の開発からプリント基板作りまで出来る体制を確立。ソフトやシステムを含む一括受注する展開で最先端の通信機器・半導体の検査・測定装置など中核技術を担う会社へと経営方向を見定めました。

こんな順調そうに見える会社もやがて最大のピンチを迎えます。バブル崩壊です。

年商15億→7.9億まで激減。固定費を下げるために人員削減が融資の条件だと銀行から迫られることもありました。技術は一度に身につけませんので企業にとって社員をやめさせる事は片腕をもぎ取られるのも同然です。そこで社長も知恵を絞りなんとかピンチをしのぎます。そんな金究社長はこう言います。「物をただ売ればいいと言うものではない、自信を持った製品を世の中に提供するのだ」と・・・。

今後はメーカーとして世の中に何かを残していく必要があるという思いがあるようです。

最後に日本の若者がどんどん起業して何かを作り上げる体制がもっと出来上がるといいのだが・・・と言われていたのが印象に残りました。

次回：第5回 5月7日 (株) マエダ 代表取締役 前田 東吉 氏 講話予定

先月の3月号の「企業経営者に話を聞く」でサイカヤ・システム・テクノロジー（株）の代表取締役である雑賀社長（異グ連副議長）の話を掲載致しました。地域活性化の起爆剤として歴史を活用したブランド戦略を横須賀商工会議所にて企画、発刊準備中とご案内致しましたが今回はブランド戦略として活動してきたことがこんな形で広がりを見せたという事例についてご案内致します。

ガリバーファンタジー活動が認められ英語教科書に掲載！！

サイカヤ・システム・テクノロジー（株）代表取締役 雑賀 政徳

みなさん『ガリバーファンタジー』という活動をご存知でしょうか？

これはYOKOSUKA米軍基地内の身長2m以上のアメリカ人をガリバー役に、幼稚園児70人を小人にみだたてたファンタジーの世界を史実に基づき演出したイベントです。

昨年11月に開催されたこのイベントには延べ4万人以上の方が訪れ活気にあふれました。

このイベントは「よこすか未来塾」（市民団体）が中心となり16年間に渡り活動してきたものですが今回ご紹介したいのはその活動が評価され教育教材として取り上げられた事にあります。中学2年生（全国140万人）の英語教科書（SUNSHINE、開隆堂出版）にこのイベントの内容が掲載される事になりました。

（掲載期間は今年の4月から4年間。）

では『ガリバーファンタジー』はどの様なものなのかお話ししましょう。

今から遡ること400年以上前。江戸初期の事、イギリスの航海士だった（注）ウィリアムアダムズ

（後の三浦按針）は今でいう神奈川県横須賀近郊を歩きまわり、彼の視点からみた日本の様子を本国の妻へ手紙を書いています。その手紙を当時の諷刺作家であったジョナサン・スウィフトが見て書き上げたもの、それが後のガリバー旅行記であると言われていています。これによると1709年5月に実際に観音崎に上陸したという記述があり、イベントでは史実にのっとりその様子を再現しています。

このような歴史的交流が時代を超えて生き続けているというこのイベントの様子が英語教材として世の中に出ることになったのです。

ローマは一日にしてならず、地域活性化も根気と継続が大切な事なのでしょう。

よこすか未来塾

<http://members2.icom.home.ne.jp/gulliver2009go/miraijyuku.html>

（注）

ウィリアムアダムズ（三浦按針）1564年～1620年

1600年4月29日、イギリス人航海士。オランダ商船のリーフデ号に乗り来日。現在の犬伏に漂着。リーフデ号は排水量300トン、船員100人、大砲18門を備えていた。これを役立つとみた徳川家康は彼を保護。後の関ヶ原の戦いではこの時の大砲と砲員が役に立たと宣教師やスペイン人の記録に残っている。その後、彼は帰国を望んだが家康はゆるさなかった。外国使節との対面、外交交渉の通訳、助言を求めると必要とした。家康は彼の功績や今後の戦略として米や俸給を与えた。後に家康の御用商人の娘と結婚し二人の子供をもうけている。その後、大型船の建造に力を尽くしたとの事からアダムズを250石取りの旗本に取り立て、帯刀を許したのみならず領地も与えた。この取立ては当時では破格の待遇である。

（1石は人が1年間消費する米の量に該当）。また与えられた三浦按針の名は、三浦＝三浦半島、按針＝水先案内人ということからきている。



オフィス架け橋
行政書士 特定社会保険労務士
松田 健

<http://kakehashi-yokohama.web.officelive.com/shiminhou.mu.aspx>

【 連載 その5 】 就業規則を作成しなければならない場合とは

就業規則を作成しなければならない場合とは！

①常時10人以上の従業員を使用する各事業場ごとに、②年間を通して労働者が平均的に10人いるかいないかで判断します。一時的に10人を割るようなことがあっても、平均的にみれば10人いる場合には作成義務が生じます。逆に、忙しい時期にたまたま10人以上となっても、年間をとおしてみても10人未満であるならば作成義務はありません。

次に、10人の数え方ですが、たいしては、会社全体での労働者数を数えるのではなく、労働基準法は事業場を単位としていますので10人を数える場合は事業場を単位とします。

たとえば、本社、工場及び営業所の3つの事業場をかかえている会社の場合には、それぞれの事業場ごとに労働者の人数を数えることとなります。そして、それぞれの労働者が、本社5人、工場12人及び営業所3人だった場合、法的に作成義務が生じるのは10人以上である工場のみとなります。ほかの2つの事業場においては就業規則が作成されていなくても法律違反にはなりません。

また、10人を数えるにあたって、その対象者は、法律上では、「労働者」のみとされています。つまり、労働者であれば正社員のほかに、パートタイマー、アルバイト、在籍出向者及び休職中の者など全て含まれます。なお、派遣労働者は派遣先では数えられません。

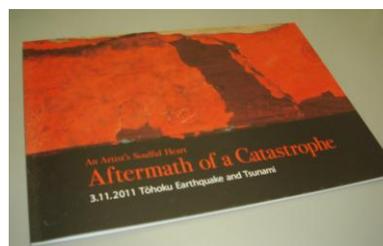
新藤久美子氏の東日本大震災津波の画集を見て

杉本 明子

誰もが息をのみ絶句した3.11の東日本大震災から、早一年が経ちました。災害義捐金の配布は遅々として進まず対策もお粗末、歯ぎしりする程無策な対応の中、被災者の方々が最も踏ん張って努力を続けて来られたのには、本当に頭が下がります。その間私達は一体何をしてきたのでしょうか。些少の寄付や些細な物資の支援だけで、後ろめたさをゴマ化しながら目を瞑って気付かない振りをしている自分が見えて、たまらなくなる時があります。被災者の方々の要望は、時間の経過とともに変化している筈ですが、そんな情報すら掴めていませんでした。全体的に落ち着いてきた今は、何よりもこの現実を忘れないでいて欲しいという事を願っておられる方が多いと伺いました。

今回発行された画集は、教訓として手に置けばイメージをかきたてられ、直接的に目に焼きつけられる座右の銘となり得るのではないのでしょうか。この画集は、強い色彩を使いながら、かつ色数を最少限に限定した抽象画で、津波発生時から襲い狂う様、そして根こそぎ持って行ってしまった後の茫漠たる爪痕をイメージし、見る者に迫ってきます。(欲を言えば、本文の方を日本語バージョンにして欲しかった。)

年月の経過と共に忘却の彼方に行ってしまうわないためにも、時々頁を開いて思い出して子孫にもその危険性を伝えて行くのが、地震国に生まれ育った我々の義務なのだと思う様になりました。会員の皆さま方にもお手元におかれて、時々見返される事をお勧めしたい一冊であると思います。(1冊2,000円)本書の売り上げの一部を被災地に寄付することとしています。



ご希望の方は、異グ連事務局にお申し出ください。

TEL:045-633-5142 FAX:045-633-5194

Mail: iguren@kanagawa-iguren.com

< 異グ連会員グループ・プロジェクト状況 >



【 第 2 9 回 異グ連総会予告 】

- 【日 時】 6月19日(火) 午後2時～3時
【場 所】 神奈川中小企業センター6F大研修室
【記念講演】 3時15分～：イムダイン社社長本多伸吉氏による
「ふけない、ぼけない、いつまでも美しく、薬によらない健康法」
【懇親会】 5時15分から交流懇親会

【 第 3 8 回 西湘サロン 】

吉池 正樹

- 【日 時】：24年5月14日(月) 午後6時～8時(開場5時30分)
【場 所】：小田原市第三区公民館(小田原市栄町1-16-41)
【会 費】：1000円
【講 師】：株式会社 ネオテック 代表取締役社長 伊藤 篤氏
【テーマ】：「徹底した品質管理体制経営を語る」
～自動車部品から医療機器など幅広くモノづくりにチャレンジしている～

これまで培ってきた異なる分野からの特殊技術を生かすことで、新しく可能性を生み出しており、神奈川県異グ連の「まんてんプロジェクト」(航空宇宙関連部品の開発・製造)にも参加している積極的な企業の社長さんのお話です。

【 第 1 2 回 海老名サロン 】

- 【日 時】：4月13日(金) 15時より
【会 場】：産業技術センター2階2-6講義室
【報 告】：「自動車産業におけるグローバル化・現地化とサプライヤーシステム」研究報告会
産業技術センター技術支援推進部 愛 賢司

【プレゼンテーション】

- (1) 「わが社の紹介と経営課題及び海外展開— ベトナム・タイへの進出 — の経過と現状」
五光発條 株式会社 代表取締役 村井 秀敏 氏
(2) 「わが社の現状と今後の課題」
大東化学 株式会社 執行役員 業務改革推進室長 斎藤 信秋 氏
(3) 「さがみはら産業創造センター(SIC)の紹介とさがみはら表面技術研究所の活動」
株式会社 さがみはら産業創造センター
さがみはら表面技術研究所所長 須藤理枝子 氏

- 【会 費】 2,000円 (前回交流会参加の方は1,000円)

産学官交流サロンコーナー (お申し込みは下記まで)

	海老名サロン 第12回	西湘サロン 第38回	三浦半島経済人サロン 第49回	神奈川新産学公交流 サロン・横浜 第49回
日程	4月13日(金) 15:00～	5月14日(月) 18:00～20:00 開場は17:30～	5月18日(金) 18:00～20:20 開場は17:30～	4月18日(水) 18:00～19:30
場所	産業技術センター2階2-6 6講義室	小田原市第三区公民館 小田原市栄町1-16-41 (駐車場はありません)	神奈川新聞社 横須賀支社 5階会議室 横須賀市小川町21-9	神奈川中小企業センター5階 会議室 異グ連
連絡先	愛 046-235-5610	異グ連(島津、吉池、)	異グ連(八幡、鶴野)	(織方、岡田、杉本、)
内容	プレゼンテーション 1、五光発條 株式会社 村井 秀敏 氏 2、大東化学 株式会社 斎藤 信秋 氏 3、株式会社 さがみはら産 業創造センター 須藤理枝子 氏	「徹底した品質管理体制 経営を語る」 (株)ネオテック 代表取締役社長 伊藤 篤 氏 参加費:1,000円	わが異業種交流会「人生劇 場」 神奈川県異業種グループ連 絡会議 常務理事 八幡 敬和 氏 参加費:1,000円	「保険の基本」 ・・・賢い活用法 (株)NSK エンタープ ライズ 代表取締役 菊地敏幸氏 参加費:1,000円

尾上町サロン 原則第一・第三金曜日 (17:15～19:30) 神奈川中小企業センター5階 異グ連事務所
自由なテーマで進行(テーマの事前予約OK) 参加費:1,000円 ぶらり参加者大歓迎!!
連絡先: 異グ連(芝、八幡、鈴木) **5月4日は休会します**

事務局のコーナー

「春」の代名詞は?と聞かれると「桜」と答える人も多い事でしょう。この時期になりますと公園には人があふれ、いたるところで皆さん赤ら顔。私たちがよく「花見」と称しているこの桜、どんな歴史があるのかご存知でしょうか?その昔、花見と言えどもともと「梅見」だった様です。それが平安時代時代に入ると貴族の間で「梅見」→「桜見」=「花見」へと変化した様です。江戸時代にこの花見を推奨した人物がいます。皆さんどなたかご存知でしょうか?町の活性化を図るため桜を植え、出店や芝居小屋を作り花見を推奨した人物、それは8代将軍:徳川吉宗でした。地域の活性化としてはじめてこの行事が過去から数百年たった今も息づいているのですね。今回の3月、4月号と歴史を感じさせる内容で地域活性化についてお伝えしましたがいかがでしたでしょうか?

「かながわ異グ連ニュース」は多くの皆様方からのご意見や投稿、感想などを頂戴し、情報を共有する事によって**未来へつながる「役立ち情報誌」**となります。お気軽にご投稿下さいませ。お伺いできる範囲であれば取材にもお伺いします。尚、自薦・他薦は問いません。ご意見、感想などあればこちらまでお願いします。 mail masahito@ab.bb-east.ne.jp



神奈川県異業種グループ連絡会議 交流アドバイザーが詰めております、気軽にご連絡ご相談ください(無料)

【月】①②④荒 直孝 ③⑤村田和彦 【火】八幡 敬和 児玉 英二 【水】杉本 明子 (芝 忠)
【木】松井 利夫 【金】①芝③村上②④⑤織方 【土、日、祭日】は休業
〒231-0015 横浜市中区尾上町5-80 神奈川中小企業センタービル5階 神奈川異グ連事務局
T/F 045-633-5142/045-633-5194 URL: <http://www.kanagawa-iguren.com> Mail: iguren@kanagawa-iguren.com

より良い紙面にしていくため皆様からの投稿、ご意見をお待ちしております。お問い合わせ、連絡先は下記の通り。

(会報編集担当) mail masahito@ab.bb-east.ne.jp 宗和(そうわ) 携帯:090-5556-8238
神奈川異グ連への連絡問合せは、上記事務局当番者 Tel: 045-633-5142 Fax: 045-633-5194 まで。